

手軽に、生成AIとの自然なコミュニケーションを実現

ウェアラブルデバイス『AIスマートリンク』を開発

AI SMART LINK



AIスマートリンク（左：カメラ非搭載モデル、右：カメラ搭載モデル）

シャープは、京都芸術大学^{※1}と共同で生成AIとの自然なコミュニケーションを実現するウェアラブルデバイス『AIスマートリンク』を開発しました。

昨今、生成AIなど、AIの開発・普及が進行する一方で、パソコンやスマートフォンなどの端末画面を見ながらの操作が必要だったり、AIからの応答に時間がかかったりするなど、気軽に利用するには課題があります。

このような課題に対し、本ウェアラブルデバイスは首にかけただけで、音声による生成AIとの自然なコミュニケーションを実現します。利用者の問いかけに対し、内蔵したマイクとカメラで周囲環境を把握した上で、音声で応答。利用者の生活をさまざまな場面でサポートします。たとえば、自転車を運転する際に本デバイスを首にかければ、AIが音声で目的地までナビゲート。画面を見る必要がないので、「ながらスマホ」抑制につながります。また、調理時のガイダンスや、音声によるAIoT対応家電の操作などにもご利用いただけます。

本ウェアラブルデバイスは、当社が開発中のエッジAI技術「CE-LLM」（Communication Edge-LLM）を搭載。利用者の問いかけに対し、高速な応答が期待できるエッジAIか、Chat GPTなどの豊富な情報が得られるクラウドAIのいずれで処理するかを即時に判断し処理することで、スムーズで自然な会話のやりとりを実現します。さらに、約100gの軽量首掛けタイプデザインですので、ハンズフリーで長時間快適にご利用いただけます。

当社は、今月から京都芸術大学と実証実験を進めるほか、Fairy Devices^{※2}およびNEC^{※3}と、『AIスマートリンク』を含む、次世代ハンズフリー型AIデバイスの共同開発に向けた協議も開始。2025年度の実用化を目指します。

■ 主な特長

1. 内蔵マイク、カメラで利用者の環境を把握し、問いかけに音声で応答
2. エッジAIにより、スムーズで自然なコミュニケーションを実現
3. 約100gの軽量首掛けタイプデザインで、ハンズフリーで長時間快適に利用可能

※1 学校法人瓜生山学園 京都芸術大学（所在地：京都府京都市、学長：吉川 左紀子、<https://www.kyoto-art.ac.jp/>）

※2 Fairy Devices株式会社（本社：東京都文京区、代表取締役：藤野 真人、<https://fairydevices.jp/>）

※3 日本電気株式会社（本社：東京都港区、取締役 代表執行役社長 兼 CEO：森田 隆之、<https://jpn.nec.com/>）

● 「CE-LLM」は、シャープ株式会社の登録商標です。

■ 利用イメージ



サイクリングでのナビゲーション



調理時のガイダンス